

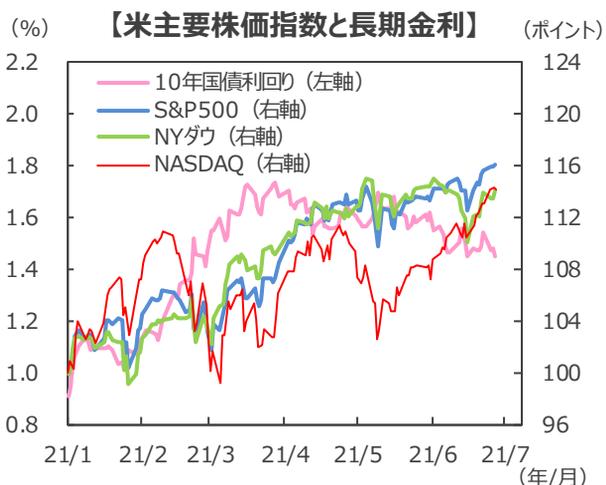
今日のトピック 上昇しない長期金利下で堅調なS&P500、NASDAQ 7月4日にコロナ独立宣言。ポストコロナ時代へ

ポイント1 S&P500、NASDAQが高値更新 NYダウは6月中旬から戻り基調に

- 米国株式市場は、NASDAQが6月29日、S&P500が30日に最高値を更新しました。ハイテク株が堅調に推移していることが背景です。NYダウは6月中旬から戻り基調となっています。

ポイント2 上昇しない長期金利が追い風 インフラ投資の超党派上院議員が合意

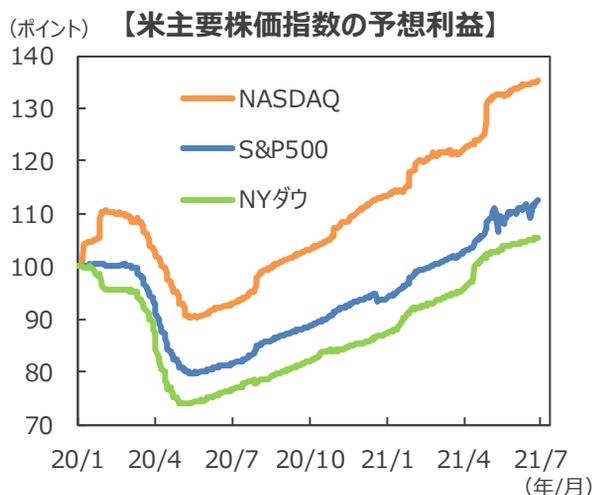
- ハイテク株が堅調に推移しているのは、米景気が今後もしっかり推移するとの見通しが維持されながら、長期金利の上昇が止まったことで、バリュエーション面での懸念が低下したことが要因です。こうした状況に至ったのは、6月22日の米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長が利上げを急がないとの議会証言により市場の早期利上げ懸念が和らいだこと、また、バイデン大統領がインフラ投資で超党派の上院議員との合意に至ったことなどが背景です。



(注) データは2021年1月4日～2021年6月30日。株価指数は2021年1月4日 = 100。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 7月4日にコロナ独立宣言。 ポストコロナ時代へ

- 今後は、経済の正常化が進む中で、株式市場の上昇も緩やかになると予想されます。
- バイデン大統領は、7月4日の米独立記念日にワクチン接種の進捗を鑑みてコロナ禍からの立ち直りを「コロナ独立宣言」とする予定です。米国は名実ともにポストコロナ時代へ入ることになります。資産購入の縮小（テーパリング）は年末ないしは来年早々にも開始される見通しで、歴史的な量的緩和政策は正常化に向かい、長期金利も緩やかに上昇すると思われる。また、ここまで驚異的な回復を見せてきた米国の企業業績も生産コストの上昇等が想定され、利益率は次第に低下する見通しです。米国株式市場は、上昇基調を続ける見通しですが、長期金利の緩やかな上昇基調のもと、業績の伸びに準じた上昇に収れんしていくと予想されます。



(注) データは2020年1月2日～2021年6月29日。2020年1月2日 = 100。予想利益は12カ月先予想。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも
チェック! 2021年6月29日 テーパリングと株価の動きを検証
2021年6月24日 2021年7月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。